

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000115		
法人名	医療法人真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム杉本		
所在地	〒558-0022 大阪市住吉区杉本1丁目6番16号		
自己評価作成日	平成24年12月29日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慢性疾患や医療依存の高い利用者でも、安心して暮らせるように環境を整備しています。常に医療関係者と連携がとれるような体制を整えています。また、介護従業者にも、必要な医学的知識の研修を行っており、入居される方だけでなく、ご家族にも安心していただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の医療法人真芳会は元々泌尿器クリニックとして現理事長が開設した。その後地元のニーズに応える形で現在では内科、人工透析、リハビリステーション等と併せてグループホーム、小規模多機能型居宅介護、通所介護、訪問介護、訪問看護、有料老人ホーム等の幅広い医療と介護連携事業を展開している。当ホームは法人の2番目のグループホームとして平成22年7月に開設された。全職員がヘルパー2級以上の有資格者である。入社後も月1~2回の全体合同研修と外部研修で職員のレベルアップを図っている。職員は「利用者の人権を尊重し、家庭的で安らぎのある生活が送れるよう医療と福祉の両面から支える」をモットーに、日夜質の高いケアに努めている。緊密な医療連携の強みを生かして、終末期の看取り介護の対応体制が整いつつあるので、利用者・家族にとっては大変心強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアー入口に理念を掲示し、従業員全員に周知させ、理念の共有に努めている。	皆で考えた理念「利用者の人権を尊重し、家庭的で安らぎのある生活が・・・医療福祉の両面から・・・地域の皆とより良いホーム作りを目指す」を玄関、ロビー等に掲示し朝夕の会議時に主旨徹底して、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議ができていなかったため、地域とのつきあいができていない。今後は日常的な交流ができるような機会づくりに努める	町会主催の「ふれあい喫茶」に利用者と一緒に参加するのを手始めに地域行事に積極的に参加し、ホーム主催の行事にも招待を勧めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、介護従業者に認知症の理解や支援方法を指導している段階であり、地域の人々に向けての働きかけができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はまだ2回しかできておらず、今後は定期的に開催し、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めていく。	平成24年度は9月と12月に開催、後2月開催予定であるが少ない。	省令で年6回以上の開催が義務付けられている。又運営に行政と地域住民のアドバイス、協力が不可欠であり、構成メンバーに開催日と議案を前広に通知し参加しやすくする様にすめられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所生活支援担当者とは毎月、連絡を取り、入居の方の状況を報告するなど、できる限り協力関係をとれるよう努めている。	毎月、区役所の介護保険課と生活支援課を訪ね、ホームの状況を報告し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない理由がある場合以外は、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを基に法人の全体合同研修を受け、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待がないよう、常に取り組んでいる。また、事業所内においても、同法の趣旨を従業員全員が共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所とグループ施設全体で同制度について、学習できる機会をもっている。また、同制度の利用が必要な方については、関係者と話し合いを持てるよう働きかけるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、要望が反映できるよう機会を開き、周知徹底に努めている。	近くの利用者が多いので、家族の来訪が多い。来訪時ホームでの様子を詳しく説明し、家族の意見要望を丁寧に聞き取り皆で情報を共有している。又毎月発行の「いきいき新聞」で行事や暮らしの状況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提言はその都度聞き、ユニット会議や全体会議で取りあげ、運営に反映させている。	朝夕の申し送りや毎月の全体会議での自由闊達な発言の中から、貴重な情報や提言を運営に反映させている。12～6月の行事決定。議事録回覧の徹底。痒みのある利用者の受診を内科から皮膚科へ切替えた事例などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準とモチベーションの相関を考え、常に従業者が前向きに働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や力量により、それを補うための研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに加入し、同業者と交流する機会を設けており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の置かれている状況を留意し、要望等はこまめに耳を傾け、満足していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所の際、意見や要望を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が早急に必要となるニーズに沿ったケアができるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の一方的な支援でなく、理解や同意を得ながら、共に生活している関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族には状況を報告しており、本人と家族の絆が切れないようにし、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が気軽に訪問できるよう環境づくりに努めており、関係が途切れないよう配慮している。	気軽に訪問できる雰囲気作りをしている。近くからの入居者が多いので、知人の来訪が多い。直ぐ近くの施設に入所の奥さんに毎日面会に行くご主人の支援もしている。遠方の広島の友人が2~3ヶ月毎に訪れる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場において、関わり合い・支え合いができるよう、常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わった後も、関係性は継続していけるよう、必要に応じ、相談や支援を受けるような体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の人格・要望を尊重するよう努めている。	アセスメントシートや介護記録を基に日常ケアの会話の中で一人一人の思いや要望を聞き取っている。特に心身ともにリラックスする入浴時の会話を本音を聞ける大事な機会として活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ、関わるスタッフは共通の情報が共有できるよう、会場の場を用い、個々の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ、関わるスタッフは共通の情報が共有できるよう、会場の場を用い、個々の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わる関係者と話し合い、現状のニーズに沿った介護計画の作成に努めている。	3ヶ月毎に担当者会議を開き、介護記録とモニタリングを基に現状に即した介護計画を作成している。又、状況の変化に応じ、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員間で共有しており、必要に応じその都度、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を踏まえ、柔軟にニーズの応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源を有効に活用できていない状況であるが、今後、安心して豊かな暮らしを楽しんでいただけるよう、活用に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を配慮しつつ、適切に医療が受けられる体制をひいている。	特定疾患については入所前からのかかりつけ医の受診を支援している。内科と歯科は本人と家族の同意を得て協力医の週1回の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の悪化が著しい場合や急変の場合など、年間を通じてオンコールにて看護職に伝え、適切な指示を受けられる体制をひいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退した場合を備えて、日々、医療機関との連携をはかり、利用者の急変時に備えられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や訪問看護とも十分に協議し、その状況の際には、即座に対応できるよう、チームで取り組んでいる。	看取り介護に関する指針が詳細に文章化されており、入所時に本人・家族に説明しているが同意書までは取りつけていない。	入院中の利用者が近く退院したら看取り対応するとの事。本人・家族に再度指針を説明した上で同意書に捺印をしてもらおうと同時に職員の研修と協力体制を至急整えられる事を望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修や自己研修で、最低限必要な医学的知識は身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応についてマニュアルを備え、緊急時の連絡・避難体制を築いている。	6月消防署立会いで防火、避難訓練を実施した。3月に後1回予定。職員の多くが比較的近くにすんでいるので夜間の災害対応も有利であるが、さらに運営推進会議で町会長、振興連合会長を通じて地域住民の協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を通じ、利用者ならびにその家族の人格を尊重した接し方の習得に努めている。	法人の接遇全体研修をうけて、「一人一人の人格の尊重と誇りやプライバシー」を侵さないよう、職員同士注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクレーションや日々の関わりの中で、本人の思いや訴えを傾聴しながら、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごしていただけるよう、柔軟な対応で働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や身だしなみは、本人の希望に沿って物を選んで着用してもらえるよう、声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや配膳をしてもらっており、できる限り家におられた時のような環境づくりに努めている。	主菜は3食とも配食業者から受け温めている。ご飯とみそ汁はホームで作っている。配膳、後片付け及びおやつ作りは利用者にも手伝って貰っている。元気で気さくな男性が特によく手伝ってくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量など定期的に管理栄養士に相談し、個々に対応した支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっており、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、今までの習慣を活かし、自立に向けての支援を心がけている。	個々の排泄パターンを把握し、且つ素振りを注意深く観察してこまめにトイレ誘導している。介護度が高く、全員昼夜ともリハビリパンツを着用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供や、日々の運動を促すよう働きかけている。また、薬剤に頼るところは主治医など関係者の意見を聞いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は一応決めているが、日中はいつでも利用できるよう、臨機応変に対応している。	週2回、男女の曜日を交えて入浴している。2方向介助できる大きな浴槽と更衣室も冷暖房付きで、年間通して快適な入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを尊重しながら、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的・副作用などはおおむね理解して服薬支援に努めており、日々の状態変化についても観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やニーズに沿った支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望による外出の機会の確保のほか、季節の催しなどへの参加への支援に努めている。	天気の良い日、体調の良い人は近くの公園やあびこ観音等に散歩に出かけている。介護度が高く外出が困難な利用者も玄関前の芝生にシートを敷き、外気に触れて五感を刺激するよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に利用者ならびにその家族の意見を尊重し、それぞれに応じた対応を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の利用者の希望に応じた対応を心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをするなど、心地よい空間づくりに努めている。	居間は、広くて明るいリビングに皆が集まり、テレビを見たり団欒を楽しんでいる。壁や棚には、家族や職員の祖母が季節に即した飾り付けをして居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において、自由に過ごせるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には本人が使いなれた馴染みの物があり、快適に暮らしていただけるよう、工夫している。	居室は広くて、利用者にとって大事な馴染みの物を持ち込み、自宅の延長線で生活できている。行事の折写した個々の写真を大きく引き伸ばして、ドアの前に貼って自分の居場所を判り易く工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を配慮しつつ、自立した生活が送れるよう配慮している。		